日本航空株式会社
2027年3月期 第2四半期
決算説明会

JAPAN AIRLINES





＊2026年10月8日 リニューアルオープン 羽田空港第1ターミナル北ウイング国内線ラウンジ

2026年11月2日

代表取締役社長執行役員グループCEO　鳥取三津子
代表取締役副社長執行役員グループCFO　斎藤祐二

APEX WORLD CLASS 2026
APEX
WORLD CLASS

Best Wi-Fi in Eastern Asia 2026 APEX”

SKYTRAX Best Economy Class Airline Seats 2025
Best Premium Economy Class Airline in Asia 2025

SKYTRAX World Airline Star Rating 5-Star

Internet IR 優良賞 2025 Daiwa Investor Relations

IFR AWARDS 2025
Bond of the Year

DEALWATCH AWARDS 2025
Yen Bond

CORPORATE STARTUP STARS 2025 10th Anniversary

D&I AWARD BEST WORKPLACE for diversity & inclusion 2025

D&I AWARD GRAND PRIZE for diversity & inclusion 2025

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500

共働き共育て Work Style Diversity 2026

SPORTS YELL COMPANY 2026 パラスポーツ部門

SPORTS YELL COMPANY 2026

TOKYO 東京都スポーツ推進企業 2024認定

work with Pride Gold 2025

1. 2027年3月期 第2四半期 業績概要
2. 2027年3月期 第2四半期 業績詳細
3. 参考資料

ESG社外評価

FTSE Blossom Japan Index※

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

S&P Global
Japan Airlines Co., Ltd.
Airlines
Top 5%
Corporate Sustainability Assessment (CSA) 2025 Score
84/100

※

Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific* Index
4年連続選定
*2025年よりDJSI Asia Pacificから名称変更

Supplier Engagement Leader
CDP
2025

※

サプライヤーエンゲージメント（SEA）A

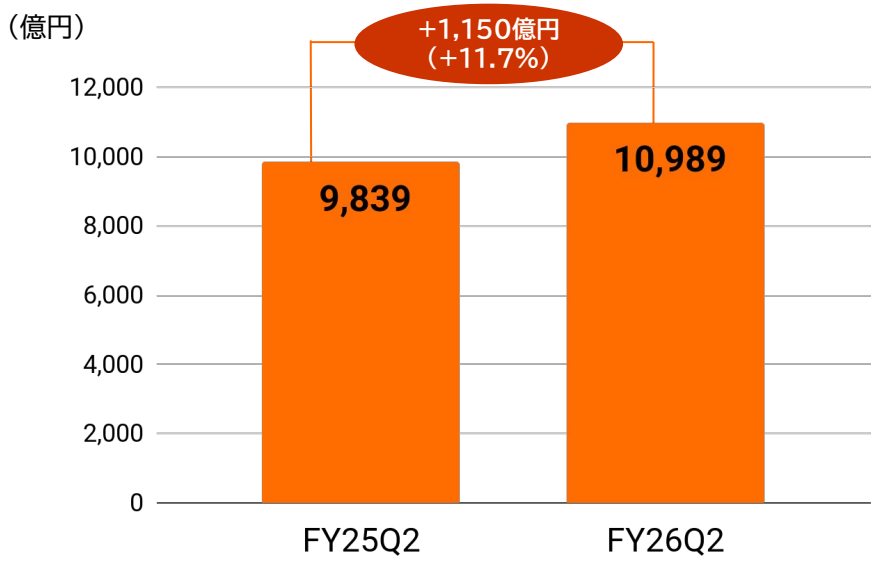
注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
(2) Q2(7月-9月)の実績はQ2累計実績(4月-9月)からQ1実績(4月-6月)を差し引いて算出しております。
(3) LCC=Low Cost Carrier (4) ※= 役員報酬算定にESG銘柄選定評価を導入しており、対象とする銘柄のうち当社が選定されているもの

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

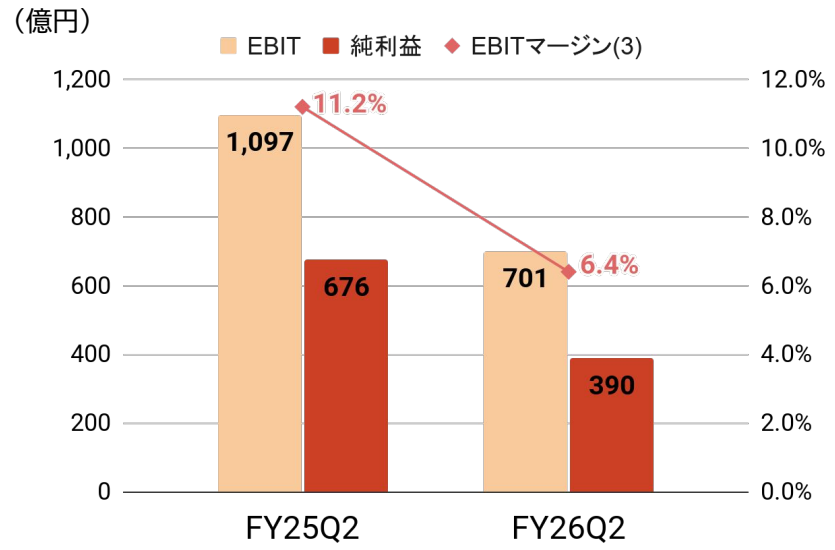
2027年3月期　第2四半期　連結業績概要

- ✔ 中東情勢の緊迫化に伴う燃油急騰に対し、国際旅客等の高い価格転嫁力や非航空事業の安定した収益貢献により影響を吸収。売上収益は再上場後の過去最高を達成し、EBITは計画を上回る水準に回復
- ✔ 通期の連結業績予想および配当金予想額は計画通り。中間配当は1株当たり48円。

売上収益



EBIT (1) /純利益 (2)



燃油・為替市況実績

	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	83.4	160.0	+91.8%
ドバイ原油 (USD/bbl)	68.9	97.1	+40.9%
為替 (円/USD)	146.2	160.0	+9.4%

運航諸元 / ASK

	FY26Q2(前年同期比)		
	国際線	国内線	合計
フルサービスキャリア	▲1.8%	▲2.0%	▲1.9%
LCC	▲14.1%	+84.6%	▲12.7%
合計	▲4.3%	▲1.6%	▲3.3%

(1) EBIT=財務・法人所得税前利益(税引前利益から利息等の財務収支を除いたもの)(2) 純利益=親会社の所有者に帰属する中間利益 (3) EBITマージン=EBIT/売上収益

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- 中東情勢の緊迫化に伴う燃油急騰に対し、国際旅客・貨物の旺盛な需要を捉えた機動的な価格転嫁と非航空事業の安定した収益貢献により、影響を吸収しました。
- 結果、売上収益は1兆989億円と再上場後の過去最高を達成し、EBITは701億円と計画を上回る水準に回復しました。また、純利益は390億円となりました。
- 2027年3月期通期の連結業績予想および配当予想額は計画通りとし、中間配当は48円を予定しております。

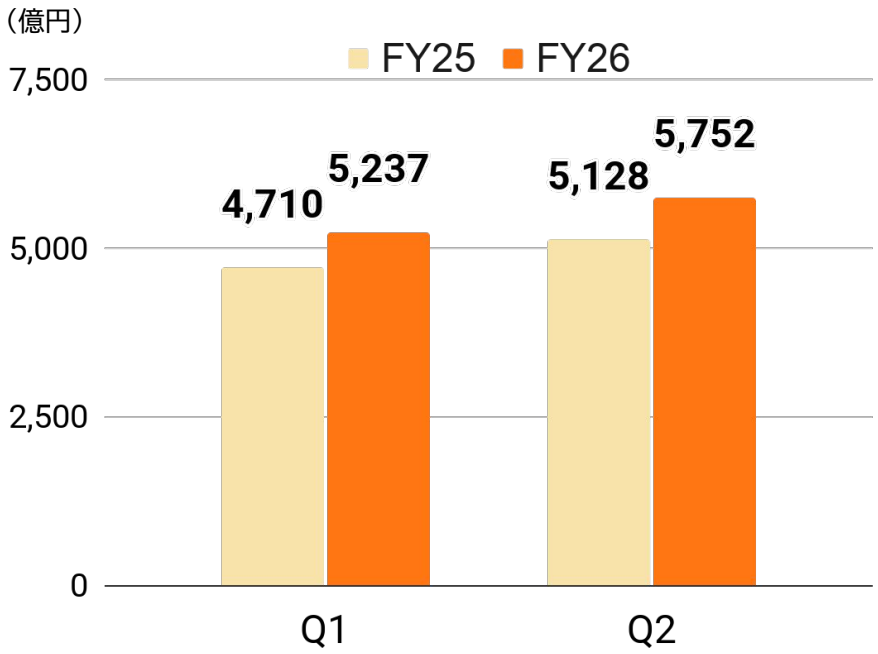
- 4ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

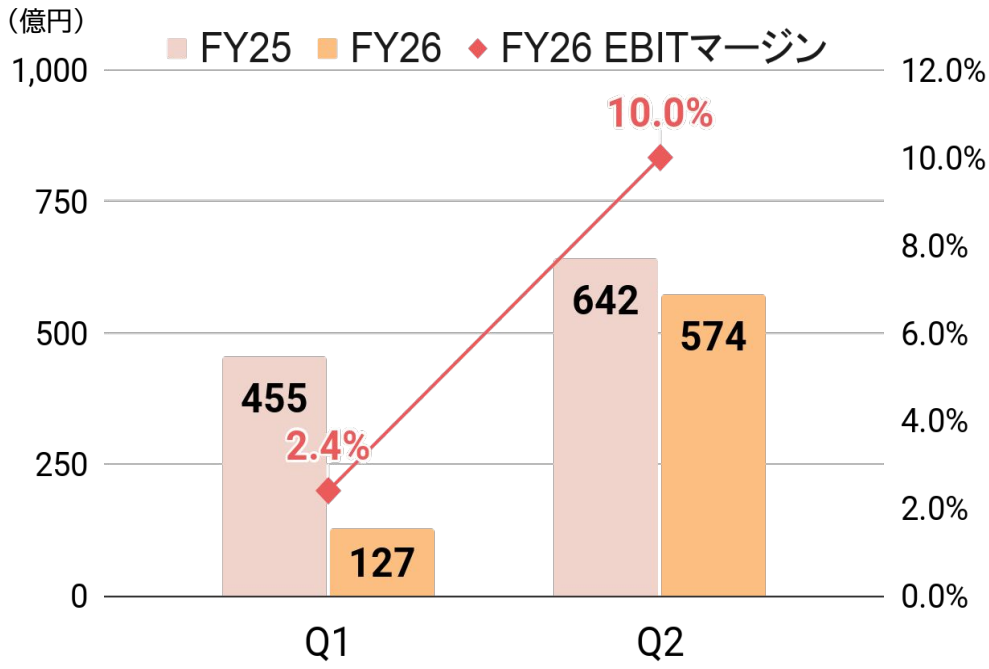
2027年3月期 各四半期の連結売上収益・EBIT推移

✔ 第1四半期におけるEBIT計画下振れを第2四半期単独で挽回し、上期EBITは計画を上回る水準に回復

売上収益



EBIT



© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、各四半期の連結売上収益並びにEBIT推移について説明します。

- 第2四半期単独の売上収益は5,752億円となりました。
- 同じくEBITは574億円となり、第1四半期におけるEBIT計画下振れを挽回し、上期EBITは計画を上回る水準に回復いたしました。

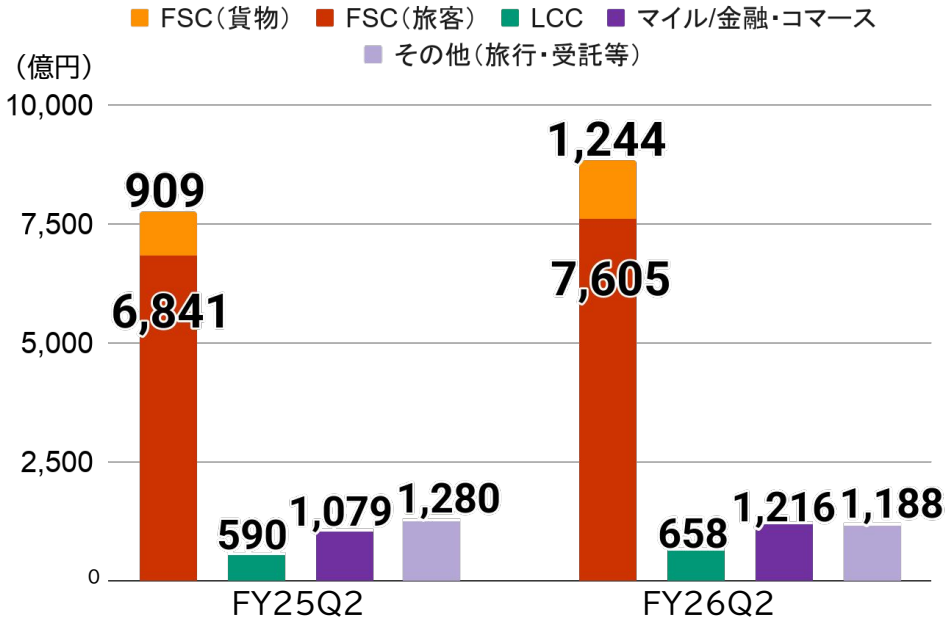
- 5ページにお進みください

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

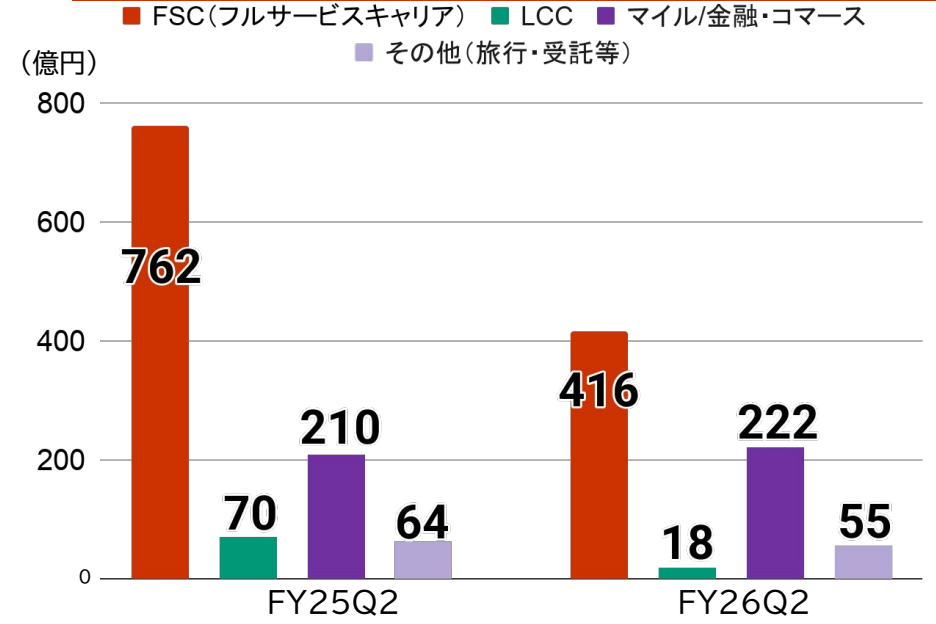
2027年3月期 第2四半期　セグメント別実績

- ✔ 地政学リスクにより航空事業のボラティリティが高まる局面において、マイル/金融・コマース等の非航空事業が安定収益源としてEBITを下支え
- ✔ FSC/LCCセグメントは、第2四半期単独は計画を上回る水準へ回復し、順調な業績推移
- ✔ コロナ禍以降で推進してきた「事業ポートフォリオ変革」が着実に進捗し、外部環境の変動に対するグループ全体のレジリエンス向上を実証

セグメント別　売上収益



セグメント別　EBIT



FY26Q2単独	FSC（フルサービスキャリア）		LCC	マイル/金融・コマース	その他（旅行・受託等）
売上収益	4,030（旅客）	616（貨物）	333	653	622
前年同期差	+445	+143	+47	+71	▲58
EBIT	424		20	101	29
前年同期差	▲30		▲7	▲6	▲21

注. セグメント別実績における売上収益およびEBITはセグメント間連結消去前数値です。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、セグメント別の実績につきましてご説明します。

- 地政学リスクにより航空事業のボラティリティが高まる局面において、マイル/金融・コマース等の非航空事業が安定収益源としてEBITを下支えしております。
- フルサービスキャリア、LCC事業につきましては、第2四半期単独は計画を上回る水準へ回復しております。
- コロナ禍以降推進してきた「事業ポートフォリオ変革」が着実に進捗し、外部環境の変動に対するグループ全体のレジリエンスが向上していることを実証できました。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

1. 2027年3月期 第2四半期 業績概要
2. 2027年3月期 第2四半期 業績詳細
3. 参考資料

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

INTENTIONALLY LEFT BLANK

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

科目別連結経営成績

(単位:億円)	累計				単独		
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期差	前年同期比	FY26Q2	FY25Q2 同期差	FY25Q2 同期比
売上収益	9,839	10,989	+1,150	+11.7%	5,752	+624	+12.2%
フルサービスキャリア	7,702	8,814	+1,112	+14.4%	4,631	+602	+14.9%
国際旅客収入	3,677	4,266	+588	+16.0%	2,149	+321	+17.6%
国内旅客収入	3,021	3,197	+175	+5.8%	1,806	+127	+7.6%
貨物郵便収入	909	1,244	+334	+36.8%	616	+143	+30.4%
その他収入	94	107	+13	+13.9%	58	+8	+17.7%
LCC旅客収入	506	562	+55	+10.9%	287	+44	+18.1%
マイル/金融・コマース	698	783	+84	+12.1%	406	+45	+12.6%
その他(旅行・受託等)等 (1)	930	829	▲101	▲10.9%	426	▲67	▲13.7%
営業費用	8,908	10,382	+1,474	+16.5%	5,213	+660	+14.5%
燃油費	1,938	2,856	+918	+47.4%	1,367	+369	+37.0%
燃油費以外	6,970	7,526	+556	+8.0%	3,846	+290	+8.2%
その他収支 (2)	166	94	▲71	▲43.2%	36	▲31	▲46.3%
EBIT	1,097	701	▲ 395	▲36.0%	574	▲ 67	▲10.5%
EBITマージン(%)	11.2%	6.4%	▲4.8pt	-	10.0%	▲2.5pt	-
EBITDA	1,919	1,564	▲ 355	▲18.5%	1,009	▲ 47	▲4.5%
EBITDAマージン(%) (3)	19.5%	14.2%	▲5.3pt	-	17.5%	▲3.1pt	-
純利益	676	390	▲ 285	▲42.2%	337	▲ 68	▲16.9%
RPK(百万人キロ)	42,300	40,874	▲1,426	▲3.4%	20,793	▲949	▲4.4%
ASK(百万席キロ)	50,733	49,038	▲1,694	▲3.3%	24,941	▲973	▲3.8%

連結業績詳細は、全社連結科目別に表したものであり、報告セグメント別の売上収益ではありません。
(1) その他(旅行・受託等)等 ＝ 旅行・受託事業収入等 (2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) EBITDAマージン=EBITDA/売上収益 EBITDA=EBIT+減価償却費

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- 以降のページでは、2027年度3月期第2四半期の詳細について説明いたします。
- 7ページでは連結経営成績の数字をお示ししております。

- 8ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

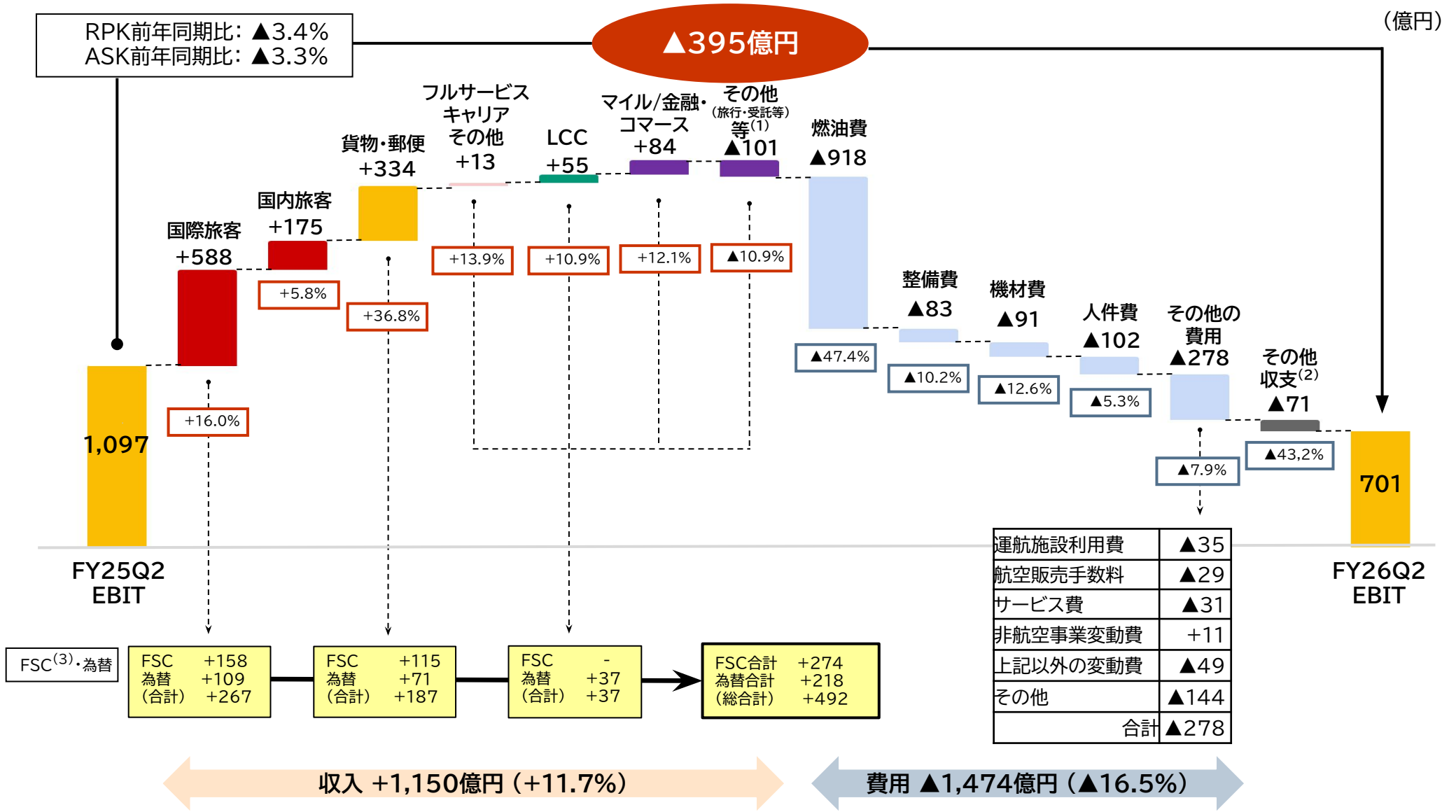
2027年3月期 第2四半期　連結業績詳細

EBIT増減の科目別推移(収入／費用)

＋は利益増(収入増・費用減)
▲は利益減(収入減・費用増)を意味する

(億円)

RPK前年同期比：▲3.4%
ASK前年同期比：▲3.3%



運航施設利用費	▲35
航空販売手数料	▲29
サービス費	▲31
非航空事業変動費	+11
上記以外の変動費	▲49
その他	▲144
合計	▲278

(1) その他(旅行・受託等)等=旅行・受託事業収入等　(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支　(3) FSC=Fuel Surcharge

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を売上収益と費用にわけてお示ししております。

- 収入につきましては、国際・国内旅客や貨物郵便、LCC、マイル/金融・コマースなど、各事業セグメントにおいて収入が伸びた結果、前年より1,150億円の増収となりました。
- 費用につきましては、燃油費の急騰に加えて、人的投資として、人件費も前年度から増加させております。結果として前年より1,474億円の増加となりました。
- 以上の結果、EBITは前年より395億円の減少となっております。

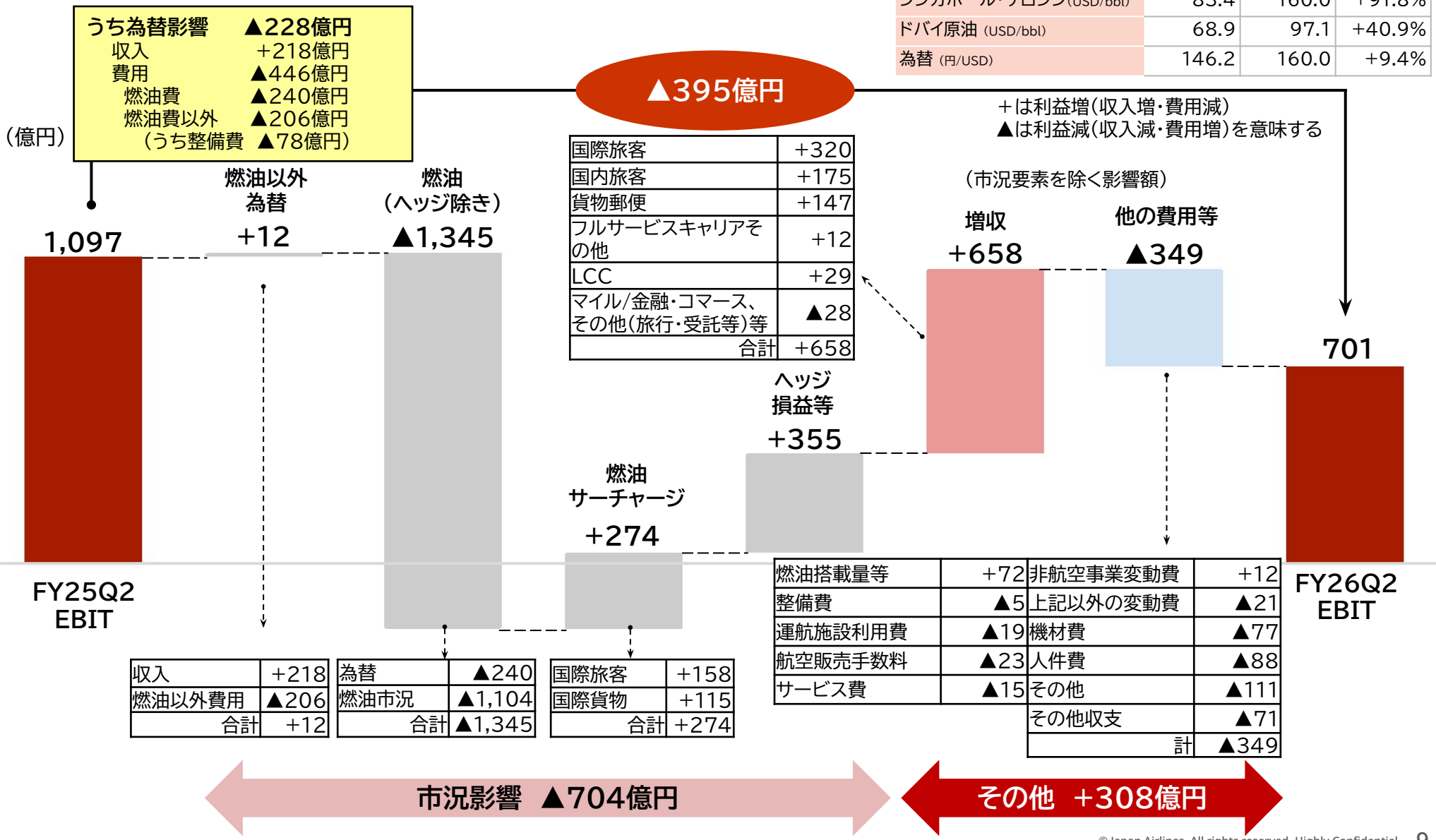
- 9ページをご覧ください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

EBIT増減の推移（市況／その他）

燃油・為替市況　実績	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比
シンガポール・ケロシン(USD/bbl)	83.4	160.0	+91.8%
ドバイ原油 (USD/bbl)	68.9	97.1	+40.9%
為替 (円/USD)	146.2	160.0	+9.4%



© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を市況影響とその他の要因に分けてお示ししております。

- 市況につきましては、シンガポールケロシンが前年から約2倍の160.0ドルに上昇し、為替市況につきましては昨年の146.2円から160.0円への円安となりました。
- これらの市況影響は前年より704億円のEBIT押し下げ要因となりました。一方で、市況影響を除いた影響は308億円のEBIT押し上げ要因となりました。
- 結果として、前年度から395億円のEBIT減少となっております。

- 10ページへお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

国際旅客（フルサービスキャリア）

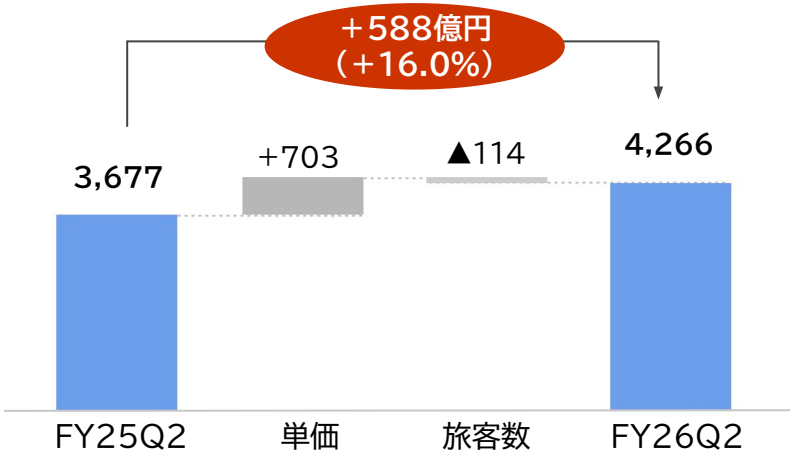
✔ 燃油急騰に対し、機動的な運賃値上げや燃油サーチャージスキーム改定による価格転嫁を徹底。第2四半期単独はサーチャージ効果が本格化し、ユニットレベニューの伸び幅が一段と加速、大幅な増収を達成

国際旅客事業の状況

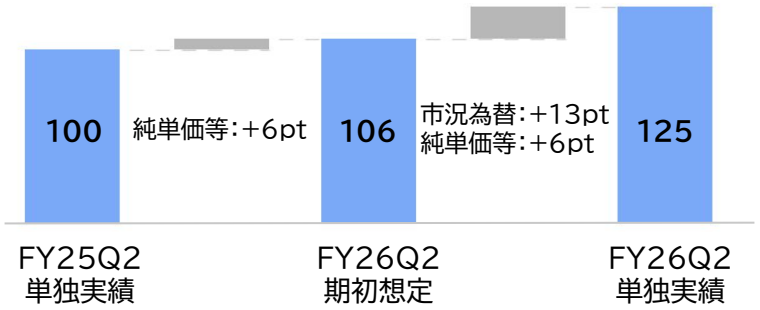
国際旅客事業	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
旅客収入（億円）	3,677	4,266	+16.0%	2,149	+17.6%
有償旅客数（千人）	3,986	3,863	▲3.1%	1,916	▲5.7%
RPK（百万人キロ）	22,562	21,438	▲5.0%	10,624	▲7.7%
ASK（百万席キロ）	26,379	25,896	▲1.8%	13,165	▲2.9%
有償座席利用率（%）	85.5%	82.8%	▲2.7pt	80.7%	▲4.3pt
単価（円）（1）	92,241	110,424	+19.7%	112,205	+24.7%
イールド（円）（2）	16.3	19.9	+22.1%	20.2	+27.5%
ユニットレベニュー（円）（3）	13.9	16.5	+18.2%	16.3	+21.1%

（1）単価＝旅客収入/有償旅客数
（2）イールド＝旅客収入/RPK
（3）ユニットレベニュー＝旅客収入/ASK

国際旅客収入の推移（億円）



Q2単独実績 単価変動
（FY25Q2単独実績＝100）



© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページではフルサービスキャリア国際旅客事業の実績をお示ししております。

- 国際旅客については、燃油費急騰に対し、機動的な運賃値上げや燃油サーチャージスキームの改定による価格転嫁を徹底しました。
- 結果、旅客数は前年から約3%減少したものの、単価は前年から約20%増加し、国際旅客収入は前年から16.0%増加の4,266億円と大幅な増収を達成しました。
- 下期では、紅葉シーズン・雪のシーズンを背景にインバウンド需要がさらに高まることが予想される中で、欧州線を中心に供給拡大を進め、価格耐性の高いインバウンド需要をさらに取り組むことで収入を伸ばしていきたいと考えております。

- 11ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

国内旅客（フルサービスキャリア）

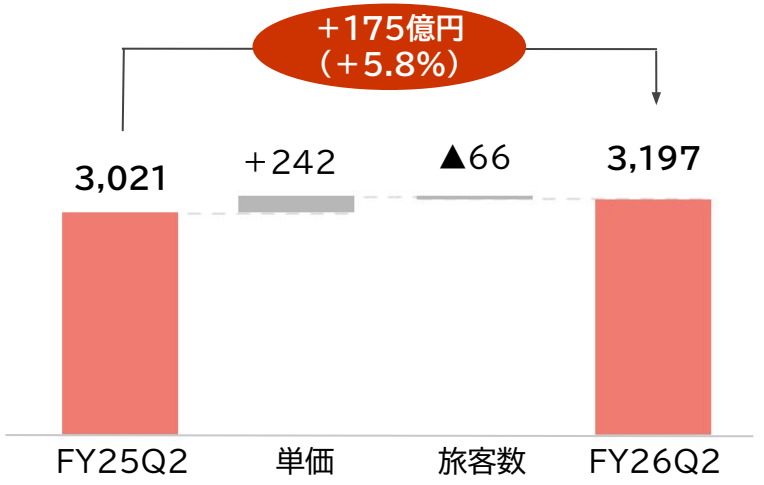
✔ 構造改革を見据えた単価重視の施策を徹底。高需要期におけるレベニューマネジメントが奏功し、第2四半期単独はユニットレベニューの伸び幅が一段と加速、増収を達成

国内旅客事業の状況

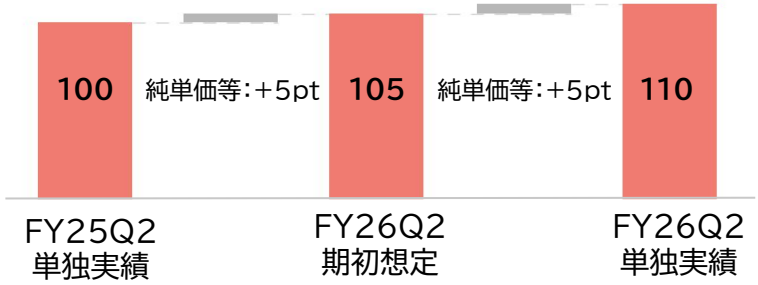
国内旅客事業	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
旅客収入（億円）	3,021	3,197	+5.8%	1,806	+7.6%
有償旅客数（千人）	19,125	18,698	▲2.2%	9,865	▲1.8%
RPK（百万人キロ）	14,623	14,296	▲2.2%	7,574	▲2.2%
ASK（百万席キロ）	17,635	17,274	▲2.0%	8,801	▲2.0%
有償座席利用率（%）	82.9%	82.8%	▲0.2pt	86.1%	▲0.2pt
単価（円）（1）	15,798	17,098	+8.2%	18,313	+9.5%
イールド（円）（2）	20.7	22.4	+8.2%	23.9	+10.0%
ユニットレベニュー（円）（3）	17.1	18.5	+8.0%	20.5	+9.8%

（1）単価=旅客収入/有償旅客数
（2）イールド=旅客収入/RPK
（3）ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

国内旅客収入の推移（億円）



Q2単独実績単価変動
（FY25Q2実績＝100）



© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページではフルサービスキャリア国内旅客の実績をお示ししております。

- 構造改革を見据えた単価重視のレベニューマネジメントにより、第2四半期単独でユニットレベニューの伸び幅が一段と加速し、増収を達成しました。
- 結果、旅客数は前年から約2%減少したものの、単価は前年から約8%増加となり、国内旅客収入は前年から5.8%増加の3,197億円となりました。

- 12ページへお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

貨物

- ✔ 国際貨物は、燃油市況高騰に対して燃油サーチャージ等による価格転嫁を進めるとともに、アジア線の自社貨物機と北米線の他社大型貨物機による貨物機ネットワークを活用し、アジア発北米向けの旺盛なAI関連需要を取り込み、大幅な増収を達成
- ✔ 国内貨物は、保安検査代行などの新サービスによる新規需要獲得を強化

国際貨物事業	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
貨物収入(億円)	707	1,039	+46.8%	512	+38.1%
有効貨物トンキロ(百万)	2,986	2,969	▲0.6%	1,485	▲2.8%
有償貨物トンキロ(百万)	1,609	1,745	+8.5%	865	+3.7%
貨物輸送重量(千トン)	293	312	+6.7%	155	+2.2%
重量単価(円/kg)	241	332	+37.6%	330	+35.1%

国内貨物事業	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
貨物収入(億円)	148	157	+6.3%	80	+6.2%
有効貨物トンキロ(百万)	855	861	+0.8%	441	+1.3%
有償貨物トンキロ(百万)	157	153	▲2.7%	80	▲1.3%
貨物輸送重量(千トン)	165	157	▲4.7%	83	▲3.4%
重量単価(円/kg)	90	100	+11.6%	97	+9.9%

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、貨物事業の業績をお示ししております。

- 国際貨物は、貨物専用機ネットワークの拡充により対前年で増収を達成しました。
- 国際旅客と同様、燃油サーチャージによる価格転嫁に加え、自社貨物機や他社チャーター機を活用してアジア北米間の旺盛な需要を獲得した結果、重量単価と輸送重量ともに前年より伸ばすことができました。
- また、国内貨物に関しましても、前年対比増収となっております。

- 13ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

LCC

- ✔ ZIPAIRは、高速インターネット「Starlink」の全機搭載完了によるプロダクト価値向上と市場環境に則した価格戦略により、高い有償座席利用率とユニットレベニューの大幅な向上を実現
- ✔ SPRING JAPANは、北京・上海線を中心とした需要と需給引き締まりを捉え、大幅な単価向上を実現

ZIPAIR	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
旅客収入(億円)	382	429	+12.3%	205	+19.3%
有償旅客数(千人)	674	710	+5.3%	355	+9.0%
RPK(百万人キロ)	4,157	4,475	+7.6%	2,214	+11.0%
ASK(百万席キロ)	5,644	5,095	▲9.7%	2,540	▲10.6%
有償座席利用率(%)	73.7%	87.8%	+14.2pt	87.1%	+16.9pt
単価(円)(1)	56,753	60,491	+6.6%	57,953	+9.5%
イールド(円)(2)	9.2	9.6	+4.3%	9.3	+7.5%
ユニットレベニュー(円)(3)	6.8	8.4	+24.4%	8.1	+33.4%

SPRING JAPAN	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	FY26Q2	前年同期比
旅客収入(億円)	124	132	+6.6%	82	+15.1%
有償旅客数(千人)	577	452	▲21.6%	272	▲8.2%
RPK(百万人キロ)	956	664	▲30.5%	380	▲21.9%
ASK(百万席キロ)	1,072	771	▲28.1%	433	▲19.7%
有償座席利用率(%)	89.2%	86.2%	▲3.0pt	87.8%	▲2.5pt
単価(円)(1)	21,496	29,237	+36.0%	30,046	+25.3%
イールド(円)(2)	13.0	19.9	+53.5%	21.6	+47.4%
ユニットレベニュー(円)(3)	11.6	17.1	+48.3%	18.9	+43.2%

(1)単価=旅客収入/有償旅客数　(2)イールド=旅客収入/RPK　(3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページでは、LCCの実績をお示ししております。

- ZIPAIRは、高速インターネット「Starlink」の全機への搭載が完了し、プロダクト価値を向上しております。マーケットの需要に柔軟に対応し、対前年比で高い有償座席利用率とユニットレベニューの大幅な向上を実現しております。
- また、スプリングジャパンにつきましては、中国大都市を中心に需給の引き締まりを捉え、対前年で大幅な単価向上を実現しております。

- 14ページにお進みください。

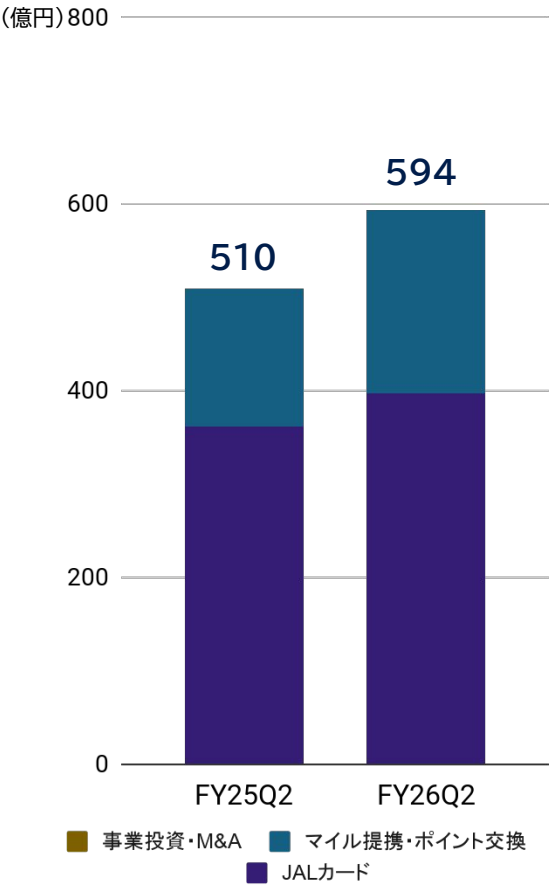
© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

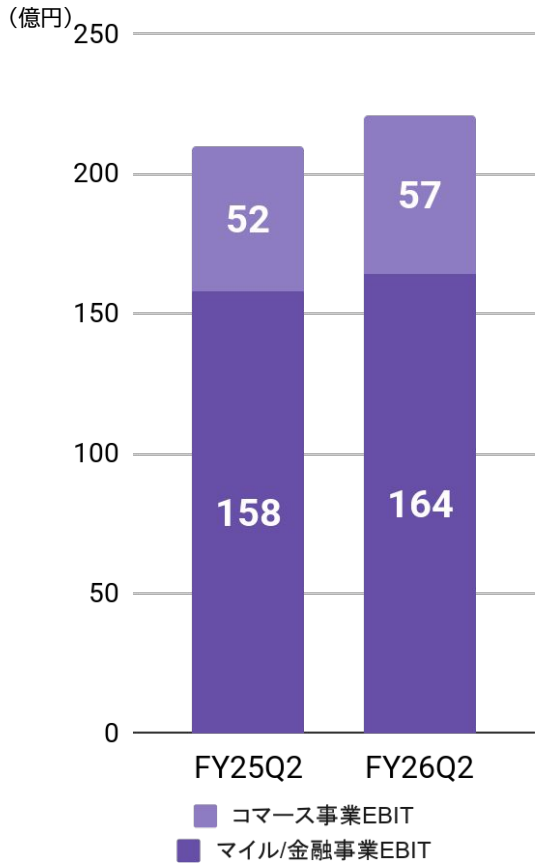
マイル/金融・コマース

- ✔ JALカード取扱高拡大や米Capital One等の既存提携に加え、第2四半期は米Citiや英Revolutとの新規提携によりグローバル展開を加速。非航空領域のマイル発行数・マイル発行収入は大きく伸長
- ✔ 多彩なマイル償還を通じた循環の健全性を維持しつつ、強固な顧客ロイヤリティを原動力に「JALマイルライフ」の持続的な拡大を推進し、セグメントEBITの増益を達成

非航空領域 マイル発行収入



マイル/金融・コマース事業EBIT



その他主要指標

JALカード取扱高	JALカード会員数(1)	一人あたり利用額
+11%	+3%	+8%
		（前年同期比）

マイル提携・ポイント交換によるマイル発行数

+38%

Capital OneやBilt Rewards等の海外金融事業者とのグローバルな提携拡大がけん引

（前年同期比）

マイル発行数		マイル償還数	
総数	+16%	総数	+17%
うち非航空領域	+18%	うち非航空領域	+10%

発行数の拡大に償還数が追随し、循環の健全性を維持

（前年同期比）

(1) JALカード会員数：F26Q2期末時点の会員数

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページでは、マイル/金融・コマース、その他の実績をお示ししております。

- マイル発行数は年率約16%増と伸長しており、安定的にEBITを計上しております。
- JALカードによる取扱高は年率11%増を達成しております。また、マイル提携・ポイント交換によるマイル発行数は、年率38%増を達成しております。
- 第2四半期においてはアメリカCitiやイギリスRevolutと新規提携を開始しております。金融領域を中心にグローバルでの展開を加速しており、航空利用による発行数の拡大、マイル償還に繋げて参ります。

- 15ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

費用詳細

主要営業費用項目

（単位:億円）	累計				単独		
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期差	前年同期比	FY26Q2	FY25Q2	
						同期差	同期比
燃油費	1,938	2,856	+918	+47.4%	1,367	+369	+37.0%
運航施設利用費	472	507	+35	+7.5%	257	+17	+7.2%
整備費	819	903	+83	+10.2%	487	+84	+21.0%
航空販売手数料	155	184	+29	+19.0%	92	+12	+15.2%
サービス費(1)	311	343	+31	+10.1%	173	+11	+7.4%
他変動費(2)	1,253	1,291	+37	+3.0%	671	+20	+3.2%
機材費	727	819	+91	+12.6%	406	+36	+9.8%
人件費	1,920	2,022	+102	+5.3%	1,015	+41	+4.2%
その他の費用	1,309	1,453	+144	+11.0%	741	+66	+9.9%
営業費用合計	8,908	10,382	+1,474	+16.5%	5,213	+660	+14.5%

FSC(フルサービスキャリア) ユニットプロフィット

（単位:円）	累計			単独	
	FY25Q2	FY26Q2	前年同期差	FY26Q2	前年同期差
UR(ユニットレベニュー)(3)	15.2	17.3	+2.1	18.0	+2.4
UC(ユニットコスト)(4)	13.9	16.5	+2.7	16.2	+2.4
UP(ユニットプロフィット)(5)	1.4	0.8	▲ 0.6	1.8	+0.0

(1) サービス費＝機内・ラウンジ・貨物などのサービスに関わる費用　(2) 他変動費＝旅行・マイル提携・コマース・受託事業原価 など
(3) ユニットレベニュー＝ 旅客収入 ÷ ASK (4) ユニットコスト＝（営業費用－旅客収入以外の収入）÷ ASK (5) ユニットプロフィット＝（ユニットレベニュー）－（ユニットコスト）

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページでは、費用の詳細とユニットプロフィットについてご説明します。

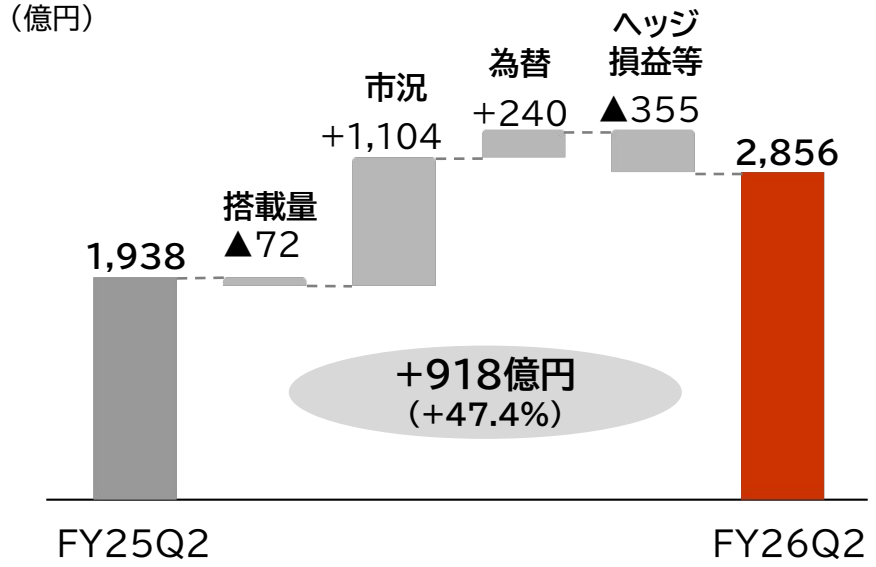
- 燃油費急騰の他、整備費、人件費をはじめとする各種費用が増加した結果、営業費用合計は前年より1,474億円増加し、1兆382億円となりました。
- 燃油費影響を背景にユニットコストは上昇しましたが、ユニットレベニュの向上を通じて、第2四半期単独では前年並みのユニットプロフィットを確保しております。
- 16ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

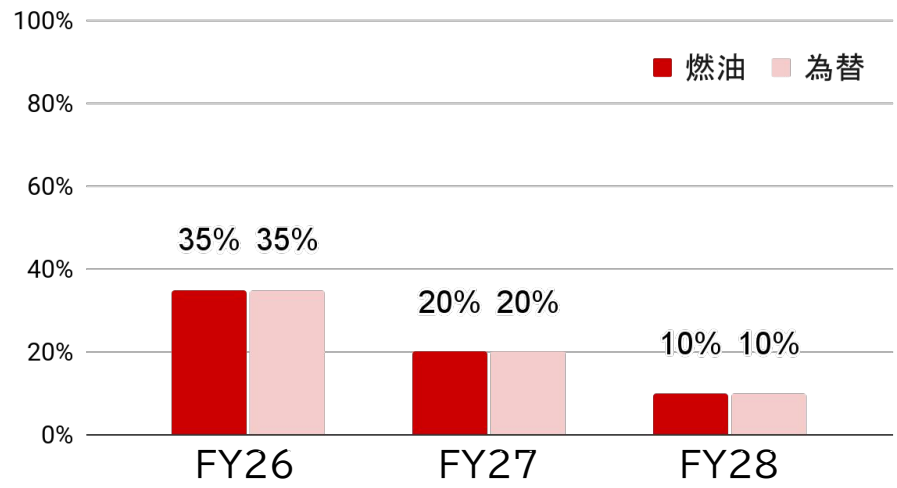
2027年3月期　第2四半期　連結業績詳細

燃油費

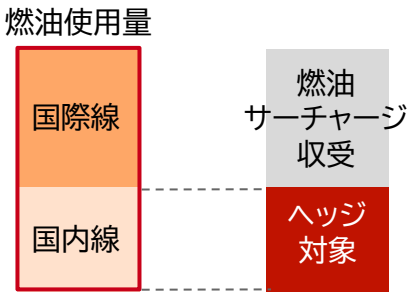
燃油費増減の推移



燃油費に対する年度別ヘッジ概況（2026年9月末時点）

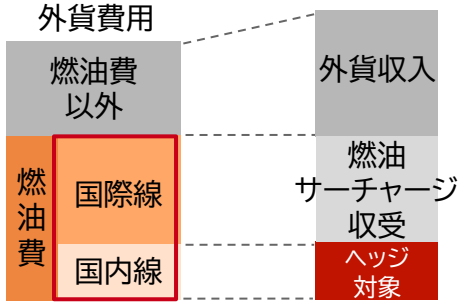


燃油ヘッジ



- 国内線使用量を対象にヘッジを実施、燃油市況変動に対応
- 国際線使用量は燃油サーチャージ収受にて対応

為替ヘッジ



- 国内線使用量の燃油費を対象にヘッジ実施、燃油費における為替市況変動に対応
- 足許では海外発需要の高まりにより、外貨収入が燃油費を除く外貨費用を上回る

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- このページでは、燃油費及びヘッジについてご説明します。

- 第2四半期累計の燃油費は前年から918億円増加の2,856億円でした。
- 右上のグラフは現在のヘッジの進捗状況をお示ししております。
- 燃油ヘッジにつきましては、全体の燃油使用量のうち、国内線に相当する量をヘッジ対象としております。一方、国際線相当分につきましては、燃油サーチャージを申し受けております。
- 為替ヘッジにつきましては、燃油費はすべて外貨費用となっており、そのうち国内線に相当する費用をヘッジ対象としております。

- 17ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

2027年3月期 第2四半期　連結業績詳細

財務状況・キャッシュフロー状況

BS
- ✔ コロナ禍で調達したハイブリッド・ファイナンス3,500億円のうち、1,500億円を返済
- ✔ 自己資本比率45.1%、ネットD/Eレシオはマイナス（ネットキャッシュ）で健全な水準を維持

CF
- ✔ 成長投資が拡大する中でフリーキャッシュフローは黒字を維持

（億円）

連結財政状態計算書	FY25期末	FY26Q2	前期末差
総資産	31,987	33,176	+1,188
現金及び現金同等物	10,101	10,341	+239
有利子負債	8,759	7,378	▲1,380
1年内返済	1,498	1,225	▲273
自己資本(1)	12,896	14,961	+2,064
自己資本比率（%）(2)(5)	40.3%（40.2%）	45.1%（36.9%）	+4.8pt（▲3.3pt）
D/Eレシオ（倍）(3)	0.7x	0.5x	▲0.2x
ネットD/Eレシオ（倍）(4)(5)	▲0.1x（▲0.1x）	▲0.2x（▲0.0x）	▲0.1x（+0.1x）

連結キャッシュフロー計算書	FY25Q2	FY26Q2	前年同期差
営業キャッシュフロー	1,583	1,600	+16
減価償却費	822	862	+40
投資キャッシュフロー	▲813	▲1,519	▲706
投資・出資額	▲964	▲1,627	▲663
フリーキャッシュフロー（6）	770	80	▲690
財務キャッシュフロー	1,235	166	▲1,068
キャッシュフロー合計（7）	2,006	247	▲1,758
EBITDA（8）	1,919	1,564	▲355

（1）　自己資本＝親会社の所有者に帰属する持分
（2）　自己資本比率＝親会社所有者帰属持分比率
（3）　D/Eレシオ＝有利子負債/自己資本
（4）　ネットD/Eレシオ＝（有利子負債ー現金および現金同等物）/自己資本
（5）　（）内の数字は、ハイブリッド・ファイナンス、永久劣後債、社債型種類株式を加味した格付評価上の数値
（6）　フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー
（7）　キャッシュフロー合計＝営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー＋財務キャッシュフロー
（8）　EBITDA＝EBIT＋減価償却費

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- バランスシートとキャッシュフローについてこのページで説明いたします。

- コロナ禍で調達したハイブリッドファイナンス3,500億円のうち、1,500億円を第2四半期で返済しております。
- 2026年9月末の自己資本比率は45.1%、同じくネットDEレシオはマイナスとキャッシュリッチであり引き続き健全な水準を維持しております。
- 9月末時点での手元現預金は1兆341億円であり、残るハイブリッドファイナンスの返済や今後の投資に向けて十分な金額を保持しております。
- キャッシュフローですが、営業キャッシュフローは1,600億円のキャッシュインフローとなりました。また、成長投資が拡大する中でもフリーキャッシュフローは80億円の黒字を維持しております。

- 22ページにお進みください。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

1. 2027年3月期 第2四半期 業績概要
2. 2027年3月期 第2四半期 業績詳細
3. **参考資料**

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料

国際線大路別実績(フルサービスキャリア)

旅客収入

(単位:%)	累計		単独	
	FY26Q2構成比	FY25Q2比	FY26Q2構成比	FY25Q2比
北米	42%	+15.0%	41%	+16.3%
欧州・中東	16%	+7.4%	16%	+3.6%
東南アジア・オセアニア	21%	+21.9%	20%	+26.9%
東アジア	13%	+22.2%	14%	+29.6%
ハワイ・グアム	8%	+16.4%	9%	+14.9%
全路線	100%	+16.0%	100%	+17.6%

有償旅客数

(単位:千人)	累計		単独	
	FY26Q2	FY25Q2比	FY26Q2	FY25Q2比
北米	892	▲4.2%	446	▲5.4%
欧州・中東	332	▲15.6%	161	▲20.7%
東南アジア・オセアニア	1,108	▲3.1%	528	▲6.6%
東アジア	1,143	+2.0%	573	+0.6%
ハワイ・グアム	386	▲2.5%	205	▲6.1%
全路線	3,863	▲3.1%	1,916	▲5.7%

ASK

(単位: 百万席キロ)	累計		単独	
	FY26Q2	FY25Q2比	FY26Q2	FY25Q2比
北米	10,136	▲0.3%	5,177	▲2.3%
欧州・中東	3,591	▲12.5%	1,798	▲13.3%
東南アジア・オセアニア	6,961	+1.7%	3,528	+3.6%
東アジア	2,549	▲0.3%	1,292	+0.8%
ハワイ・グアム	2,658	▲1.9%	1,369	▲8.1%
全路線	25,896	▲1.8%	13,165	▲2.9%

有償座席利用率

(単位:%)	累計		単独	
	FY26Q2	FY25Q2	FY26Q2	FY25Q2
北米	82.8%	85.8%	80.9%	83.5%
欧州・中東	85.9%	87.9%	83.6%	90.0%
東南アジア・オセアニア	79.9%	84.7%	75.2%	84.0%
東アジア	84.4%	84.4%	83.7%	85.8%
ハワイ・グアム	84.7%	84.2%	87.3%	84.9%
全路線	82.8%	85.5%	80.7%	85.0%

RPK

(単位: 百万人キロ)	累計		単独	
	FY26Q2	FY25Q2比	FY26Q2	FY25Q2比
北米	8,390	▲3.8%	4,189	▲5.3%
欧州・中東	3,085	▲14.5%	1,503	▲19.4%
東南アジア・オセアニア	5,559	▲4.0%	2,654	▲7.2%
東アジア	2,150	▲0.3%	1,081	▲1.7%
ハワイ・グアム	2,252	▲1.3%	1,195	▲5.5%
全路線	21,438	▲5.0%	10,624	▲7.7%

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料

航空機一覧

			前期末 2026/3/31			当期末 2026/09/30			増減
			所有	リース	合計	所有	リース	合計	
フルサービスキャリア	大型機	Airbus A350-1000	10	1	11	10	1	11	0
		Airbus A350-900	12	5	17	11	6	17	0
		Boeing 777-300ER	9	0	9	9	0	9	0
		大型機 小計	31	6	37	30	7	37	0
	中型機	Boeing 787-9	19	3	22	19	3	22	0
		Boeing 787-8	23	0	23	23	0	23	0
		Boeing 767-300ER	24	0	24	24	0	24	0
		中型機 小計	66	3	69	66	3	69	0
	小型機	Boeing 737-800	49	7	56	49	7	56	0
		小型機 小計	49	7	56	49	7	56	0
	リージョナル機	Embraer 170 / Embraer 190	32	0	32	32	0	32	0
		De Havilland DHC-8-400CC	5	0	5	5	0	5	0
		ATR42-600 / ATR72-600	14	1	15	14	1	15	0
		リージョナル機 小計	51	1	52	51	1	52	0
	貨物機	Airbus A321-200	0	3	3	0	3	3	0
		Boeing 767-300ER	3	0	3	3	0	3	0
		貨物機 小計	3	3	6	3	3	6	0
		フルサービスキャリア 合計	200	20	220	199	21	220	0
LCC		Boeing 787-8	8	0	8	8	0	8	0
		Boeing 737-800	0	6	6	0	6	6	0
		LCC合計	8	6	14	8	6	14	0
総計			208	26	234	207	27	234	0

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料
2027年3月期　セグメント別通期業績予想

(単位:億円)	FY26			
	Q1単独	Q2単独	上期累計	予想
売上収益	5,237	5,752	10,989	20,950
フルサービスキャリア	4,202	4,647	8,849	16,420
国際旅客収入	2,116	2,149	4,266	7,780
国内旅客収入	1,390	1,806	3,197	6,190
貨物郵便収入	627	616	1,244	2,080
その他収入	67	73	141	370
LCC	324	333	658	1,320
マイル/金融・コマース	563	653	1,216	2,330
その他(旅行・受託等)	566	622	1,188	2,760
連結調整額	▲419	▲504	▲923	▲1,880
営業費用	5,168	5,213	10,382	19,420
燃油費	1,488	1,367	2,856	4,170
燃油費以外	3,679	3,846	7,526	15,250
その他収支	58	36	94	270
EBIT	127	574	701	1,800
フルサービスキャリア	▲8	424	416	1,040
LCC	▲1	20	18	130
マイル/金融・コマース	120	101	222	510
その他(旅行・受託等)	26	29	55	140
連結調整額	▲10	▲1	▲12	▲20
EBITマージン(%)	2.4%	10.0%	6.4%	8.6%
EBITDA	555	1,009	1,564	3,600
EBITDAマージン(%)	10.6%	17.5%	14.2%	17.2%
純利益	53	337	390	1,100

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

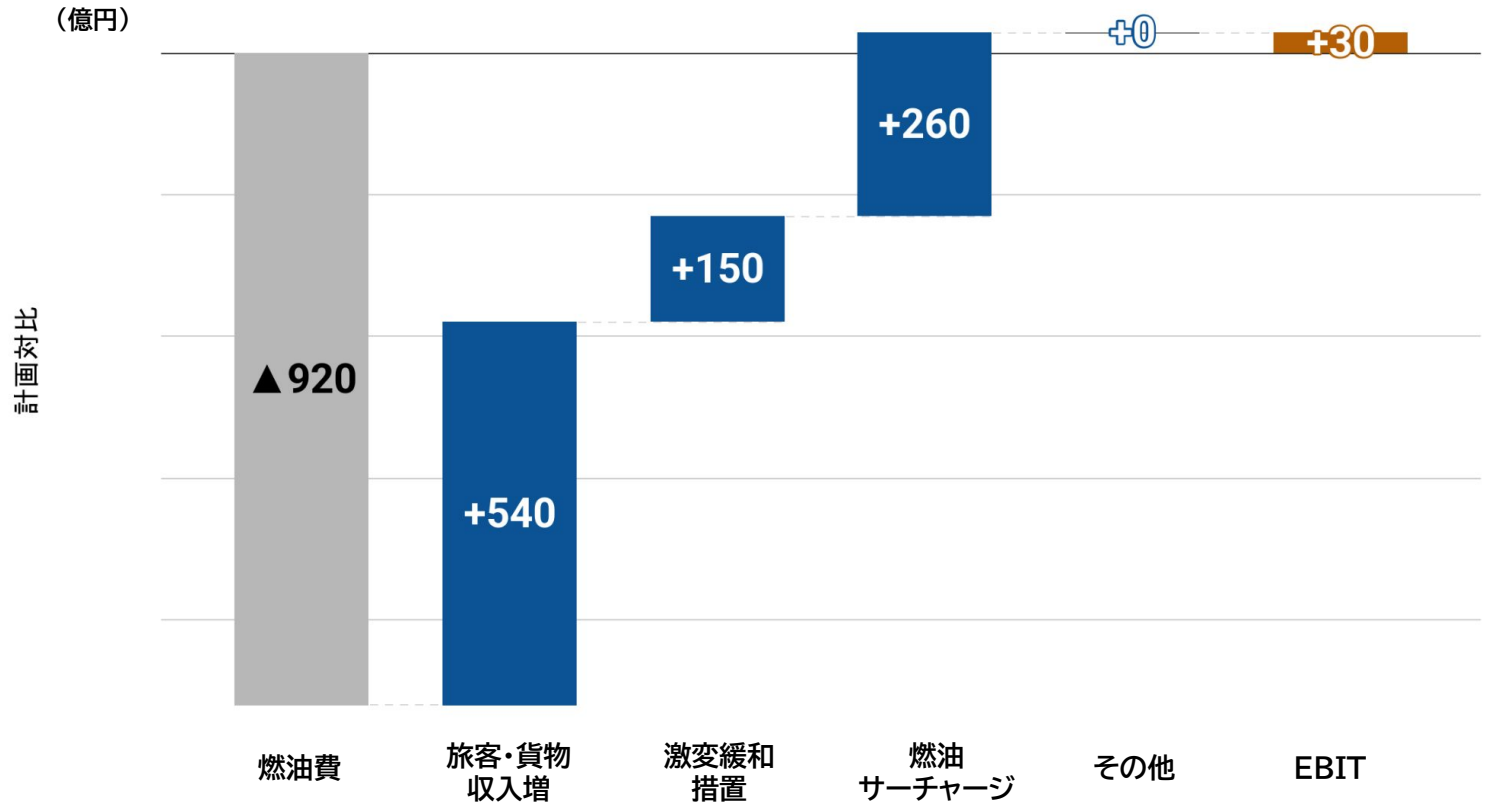
参考資料
中東情勢に伴う上期EBIT影響概算（計画対比）

✔ 燃油市況高騰と円安により燃油費が増加したものの、旅客・貨物事業の単価向上等による収入増、政府支援による激変緩和措置、燃油サーチャージによる価格転嫁を通じて影響を吸収し、上期EBITは計画上振れ

上期市況実績
シンガポール・ケロシン160ドル/bbl
為替160円/USD

FY26上期実績（4月-9月累計）

＋は利益増（収入増・費用減）
▲は利益減（収入減・費用増）を意味する



※本図は、2026年3月2日公表の業績見通し（前提：シンガポール・ケロシン90ドル/bbl、為替150円/USD）に対する、燃油市況・為替変動に係る上期影響を示しております。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

- こちらのページでは、市況変動による上期での影響についてご説明します。

- 上期の市況としてシンガポールケロシンが1バレル当たり160.0ドル、為替が1ドル当たり160円となった結果、燃油費は当初計画から約920億円増加しました。
  - この費用増加分を、①底堅いベース需要と機動的なレベニューマネジメントの奏功といった「当社自身の稼ぐ力」、②激変緩和措置、③5月改定以降の燃油サーチャージ収入で影響を吸収しました。
  - 結果、燃油市況高騰が継続する中、計画よりも約30億円上回ったEBITを確保することができております。

- 次ページ以降は参考資料です。

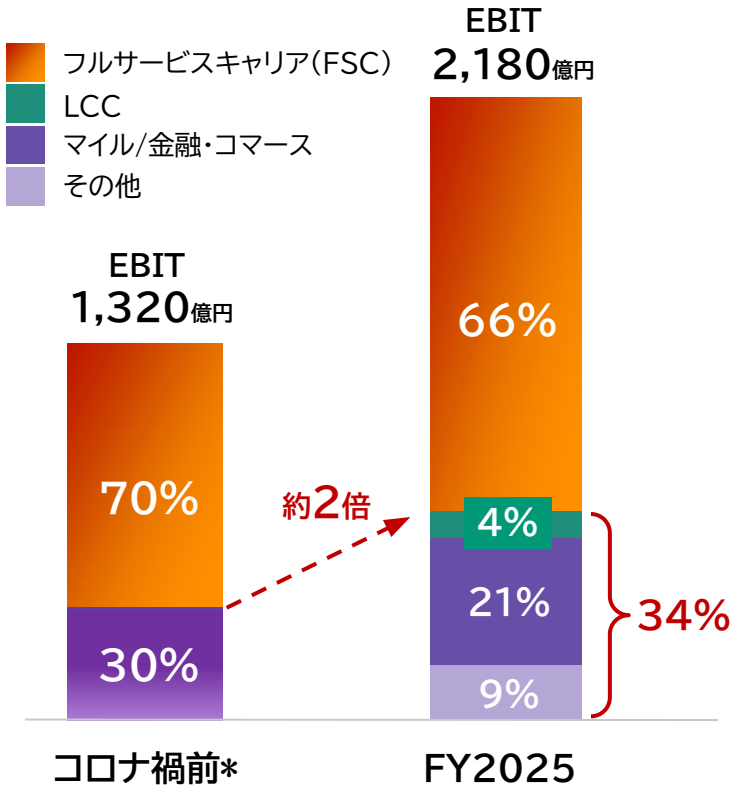
© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料

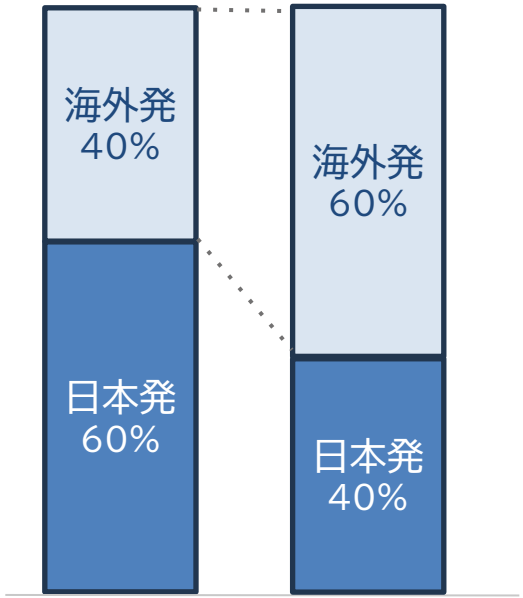
事業リスクの構造的低減を通じた資本コスト(WACC)抑制の推進

(1)事業ポートフォリオ変革の推進により、外部環境の変動に強い事業構造へシフト
(2)国際線の海外発旅客比率向上により、価格転嫁力と為替変動を吸収する外貨獲得力を強化
(3)国内線燃油サーチャージ導入により、燃油市況・為替変動に伴う業績ボラティリティの抑制を図る

(1)事業ポートフォリオ変革



(2)国際線 海外発旅客比率の向上



(3)国内線 燃油サーチャージ導入

～2027年3月

国内線燃油使用量を対象に燃油および為替ヘッジを実施することで、市況変動リスクを平準化

2027年4月からの導入を計画

燃油サーチャージ導入に伴い、燃油・為替市況によるコスト変動を直接的に顧客へ転嫁できる体制へ移行

*コロナ禍前:FY2019実績から新型コロナ影響を除いた数値(FY2019Q3決算発表時に開示した業績予想 (IFRS))

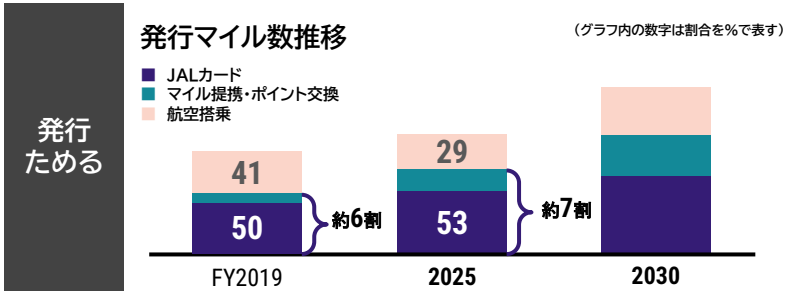
© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料

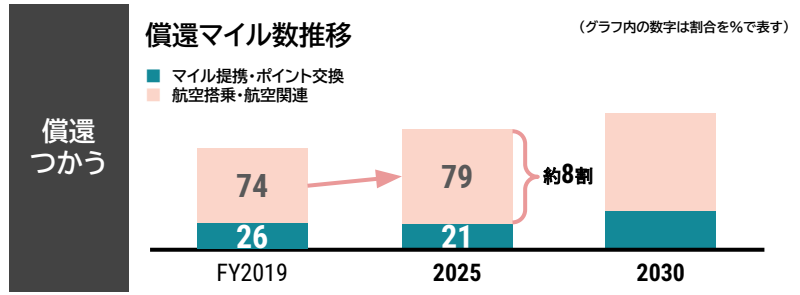
マイル金融事業（ビジネスモデル）

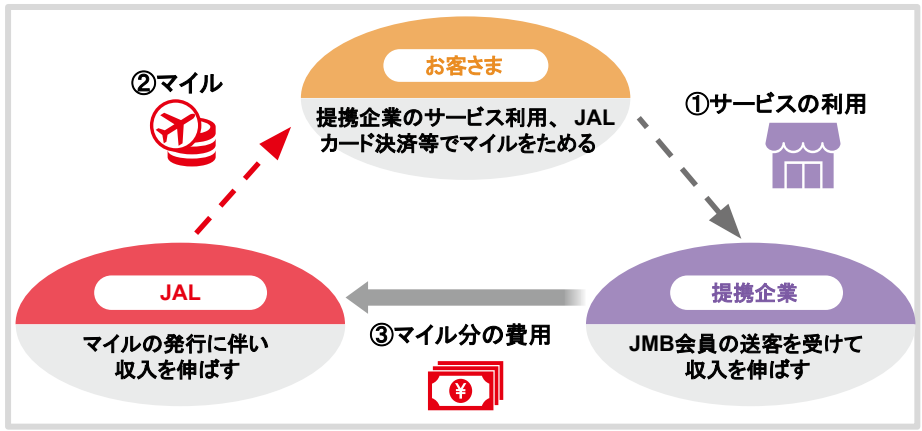
- ✔ JALカード決済や提携企業のサービス利用等に伴うマイル発行収入と、マイル償還費用の適正コントロールによりマージンを確保し、アセットライトで資本効率の高い事業モデルを構築
- ✔ 日常消費に密着した非航空領域でのマイル発行により、航空需要の変動や地政学リスクに強い安定的なキャッシュフローを創出

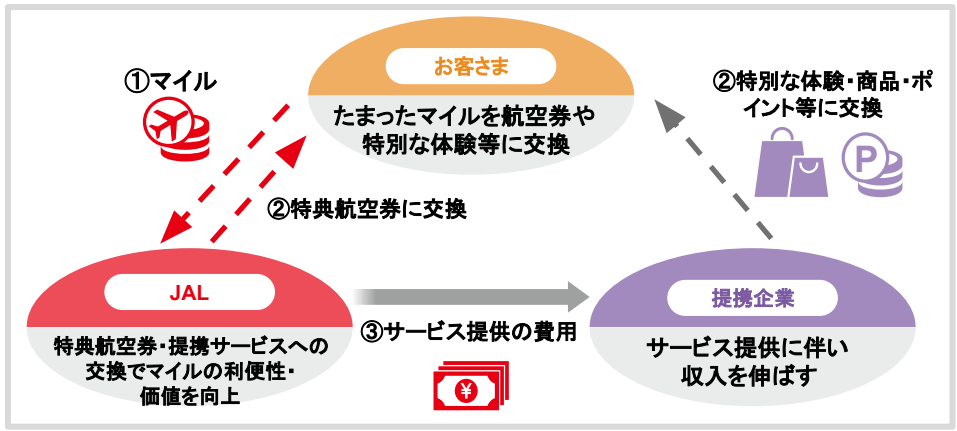
マイルの発行（約 7割は非航空領域）



マイルの償還（約 8割は航空搭乗・航空関連）





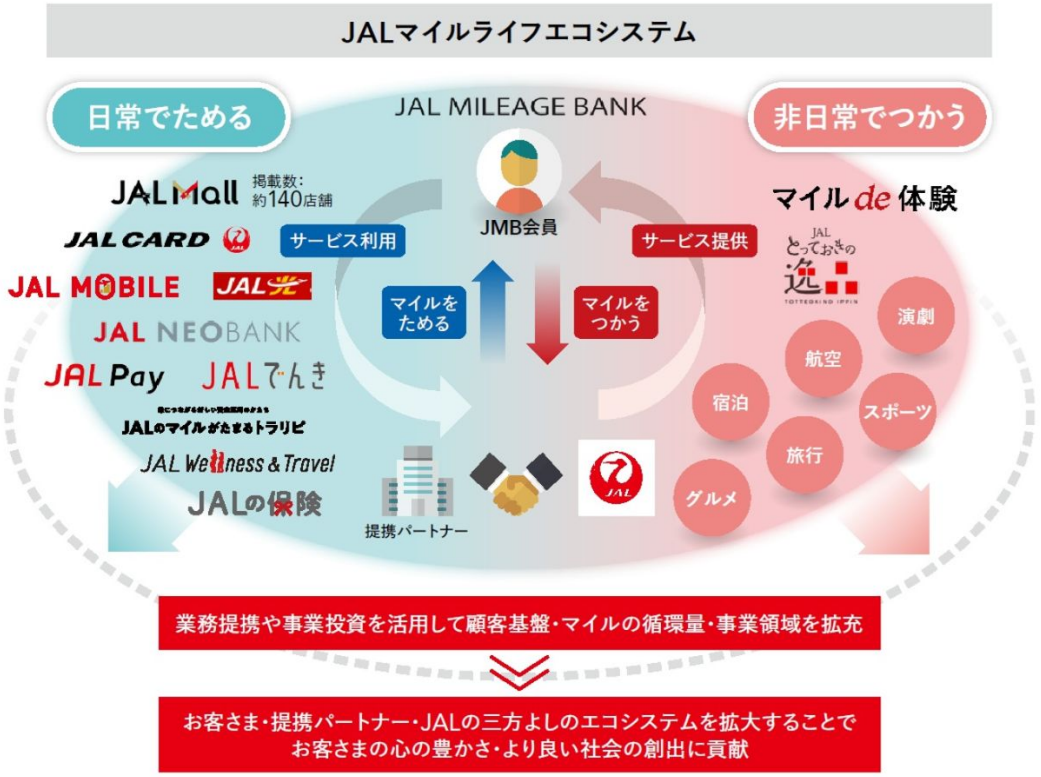


© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

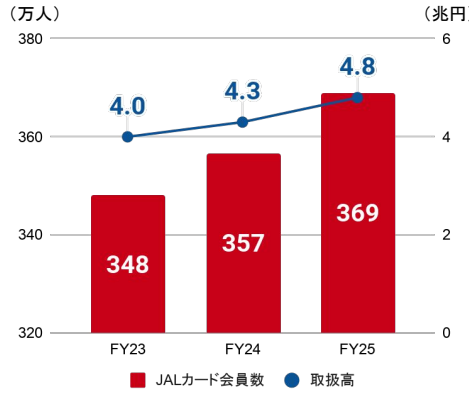
参考資料

マイル金融事業（顧客基盤を中核としたエコシステム）

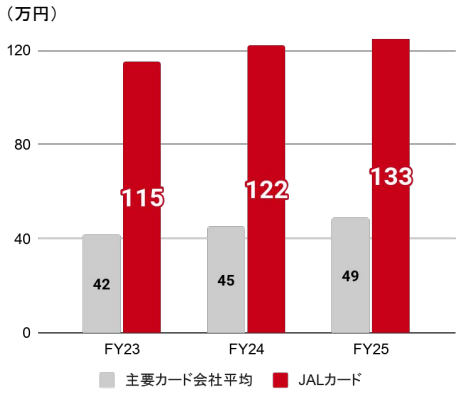
- ✔ 約4,100万人の顧客基盤を最大限に活用し、強固な顧客ロイヤリティを原動力に「JALマイルライフ」の持続的な拡大を推進
- ✔ Marriott Bonvoyとの戦略的パートナーシップやグローバル企業とのマイル提携に加え、戦略的出資を通じた顧客層拡大を志向



JALカード会員数・取扱高は着実に拡大傾向



JALカード会員一人あたりの年間利用額が他社に対して高い (1)



Life Status プログラム（LSP）を通じた強固な顧客ロイヤリティ

LSP会員によるマイル発行数シェア (2)

46%

LTV（顧客生涯価値）の高いLSP会員が事業基盤を盤石に支え、「JALマイルライフ」の持続的成長を牽引

(1) 主要カード会社平均 = 会員数100万人以上のカード会社の平均。出典：月間消費者信用、リテール金融オンライン（取扱高 ÷会員数で算出）、(2) LSP会員によるマイル発行数シェア：2025年1月～12月累計実績

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.

参考資料

マイル金融事業（収入構造ロジックツリーと航空事業とのシナジー）

- ✔ カード事業の自社展開やLife Status プログラムを通じた強固な優良顧客基盤を軸に、日常決済や提携ポイント交換の拡大、機動的なM&Aを組み合わせることでマイル発行数を非連続に拡大
- ✔ 特典航空券PLUSの導入や航空以外の償還先拡充による多彩な償還実績がマイルのブランド価値を高め、マイル発行単価の適正なプライシングを維持

収入	要素分解	ドライバー	JAL独自の強み
マイル発行収入	マイル発行数	JALカード 決済高の拡大 年平均成長率 +10%	・カード事業の自社展開 ・会員一人あたりの年間カード利用額が他社平均比で高い
		マイル提携・ ポイント交換の拡大 年平均成長率 +20%	・Life Status プログラムを通じた優良顧客基盤がもたらす提携先への高い送客価値 ・グローバルな提携による顧客基盤の拡大
		事業投資・ M&Aの拡大 年平均成長率 +α	・戦略投資枠800億円の設定（FY26-30の5年間） ・新たな事業領域の取り込みによるJALマイルライフの非連続な拡大
	マイル発行単価	魅力的な マイル償還の拡大	・特典航空券PLUSの導入および航空以外の償還先拡充 ・魅力的な償還実績がマイル価値を高め、発行単価の適切なプライシングを維持
航空収入			・マイル発行収入のうち一部は、特典航空券としてのマイル利用を通じ「航空収入」へ還流 ・グローバル提携を通じて獲得した海外新規ユーザーの国際線ビジネスクラスへの搭乗促進など、航空事業とのシナジーを創出

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.



当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部　財務部

免責事項

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社とあわせて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではございません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。

© Japan Airlines, All rights reserved. Highly Confidential.